

桂川・東部地域協議会活動報告

■学習会（2009.3.3）

今年度の学習会は、森づくりについて、県内の先進事例を視察・学習しました。

まずは、早川町の町営温泉「ヴィラ雨畑」。地域の間伐材の利活用方法として、薪を高熱でガス化し効率よく燃やすボイラーを設置することで町営温泉の熱源としており、灯油代の節約と森林資源の活用につなげています。

また、地域の木材を活発に広域的に流通させている、南部町森林組合の富士川木材共販所において、市場見学を行い、森林組合の取り組みについて話を聞きました。

○参加者 15人

○旅程（バス利用）

11:00～12:30 ヴィラ雨畑

13:30～14:30 木材共販所

○ヴィラ雨畑

（町ご担当者）ボイラーはチェコ製、4,500万円ほど。耐用年数は8～10年だが使いようで20年はもつらしい。日本製は電気を作れたりとか色々な機能があるが高い。

チェコでは一般家庭でもこのような設備がある。本来は給湯用だが温泉施設に使っている。ボイラーで温泉を温めると鉱石がついてしまい掃除が大変なので水道水を温めてこれを熱媒体として源泉15度の温泉を温める。



使用する薪は長さ120センチ以下、直径20センチ以下で、1年くらいおいたもの。薪を燃やすと600～800度になる。出たガスを使うと1,000～1,200度になる。針葉樹の方が燃やしやす。ダイオキシンは高温なので出ない。

薪は1日70～100キロ燃やす。1,200度だから灰もあまり出ない。月1回ほうきで掃くくらい。

12月から使い始めて3箇月くらい。源泉は夏と冬で温度が違うため、どのような使い方がいいのかデータがほしい。薪の重さを量ったり気候とか気温とかを見ているところ。



なぜこのような設備を入れたのかというと、早川町にはペレット工場がないので、こういうものを入れないと

金が町外に出て行ってしまふ。地元業者をなるべく使いたいのので簡易に薪を入れて使えるボイラー導入とした。関心のある方が多く県外からも視察に来る人がいる。

薪は間伐材で1立方あたり15,000円程度、薪の製造・販売を頼んでいる早川町森林組合からは安い価格だと聞いている。年間160トンの薪を使うので210~230万円はかかる。トラックで運搬するが10分程度と近くて好都合。

コストは灯油だと年間600万円だから大分良くなる。この設備は取扱が容易だから温泉の係が扱っていて、人件費がかからない。また、薪の加工賃がないので手軽。薪は消防法の規制もあまりないという良い点もある。

このあと、質疑応答が行われましたが、参加者の皆さんも初めて見る設備に関心が高まり、活発なものとなりました。

○富士川木材共販所

(南部町森林組合専務さん) 南部町の樹は50~55年生が多い(11令級) 山は急峻で林道の事業費がかかり、なかなか通らない。よって林道の密度は低い。

ただ、ここの場所がいいのか、素材としては静岡、名古屋、岐阜あたりから注文があり、製品は神奈川、東京、千葉あたりから買いに来てくれる。ロシア材の輸出関税が高くなるのでここから買いたいといった様々な要因

がある。最近ではプレハブは減っているが壁材、床材の注文が増えてきている。



平成20年度には365ヘクタールの間伐をしたが搬出は50ヘクタールくらいで切り捨てがほとんど。スギヒノキで9,311ヘクタールもあるのだが。間伐は本来10年に1度くらいはしたいが机上でひと回りするのに25年もかかる。

幸か不幸か不景気で林業に携わりたいという希望者はいるが専門技術が必要であり、すぐに安心して任せるといった訳にはいかない。

このあと雪の中、共販所をご案内頂きました。共販所は規模が大きく皆さん驚いていました。(終)